

## 第7回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会

日 時：令和5年6月29日（木）午後6時32分～午後7時57分

場 所：区役所第一庁舎「教育委員会室」

出席者：委員（13名）

【学識経験者】近藤委員（委員長）、細越委員（副委員長）、芳地委員

【総合型地域スポーツ・文化クラブ代表】岸田委員

【保護者代表】松浦委員

【区立中学校教員】加藤委員、大塚委員、宮内委員

【せたがや文化財団事務局長】志賀委員

【世田谷区スポーツ振興財団事務局長】浅野委員

【区職員】大澤委員、渡邊委員、小泉委員

事務局（4名）

- 1 開 会
- 2 会議録の確認
- 3 部活動地域移行に係るキャッチフレーズとその趣旨について
- 4 部活動地域移行に係る検討委員会報告書（中間まとめ）について
- 5 部活動地域移行トライアル事業のアンケート集計結果について
- 6 部活動地域移行に関するアンケート（全生徒/保護者/教員向け）について
- 7 その他
- 8 閉会

午後 6 時32分開会

○委員長 それでは、定刻を過ぎましたので、第7回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会を始めたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

本日は、宮幸委員、それから栄委員の2名が欠席との連絡が入っております。松浦委員、宮内委員は、後ほど御到着されるということで、出席は13名ということを用意しております。

それでは、本日の次第に従いまして会議のほうを始めたいと思います。

まず、次第のほうでございますが、2番目の会議録の確認というところで、各委員のところには、事前に配付、送付していただいておりますが、何か追加での訂正事項はございますでしょうか。ございます方はこの場でお伝えいただければと思っておりますが、いかがでしょうか。

では、今回の第6回の会議録につきましては、案のとおりとさせていただきますが、もし全体の会、本日午後8時をまた目途とさせていただきますが、そちらの手前のところで再度確認させていただきますので、何か追加でございましたら、お申し出いただければと思っております。

では、次第の3番のところに行きたいと思っております。部活動地域移行に係るキャッチフレーズとその趣旨についてということでございます。前回、時間切れという形でほぼ御意見をいただく時間がなく、こちらの資料1でございますが、皆さんのほうにお配りしたままで、その後何も御意見をいただくことができなかったんですけれども、一応キャッチフレーズの案一覧というところが、こちらのほうで、生徒や保護者の視点からすると、組織自体の視点から、あるいは実際の地域指導者の視点からというところも含めて、幾つかの案を出させていただきました。御覧いただくとお分かりかと思っておりますけれども、1個に集約してしまうと、十分に趣旨を発信できないということを感じておりますので、幾つかのフレーズを使い分けながら、その場、その場に応じて、生徒向け、あるいは保護者向け、あるいは指導者を新規募集する向けみたいに幾つかチョイスできたらなと思っております。

中身につきましては、もう既に前回のところでお話をさせていただいておりますので、細かいところは全部読んでいくことはありませんが、中のほうの新たな価値というところで、全体の3枚目ぐらいになりますか、世田谷の部活動が地域移行、あるいは地域クラブということに、一緒にやっていくということは一体何なのかというところをいま一度確認させていただきますけれども、やはり子ども、あるいは御家庭の自己選択、自己決定、そ

れから自ら選べる選択肢が今まで以上に増えるよということ、それからよりよい指導環境が提供できるのではないか、あるいは専門的な指導を継続的に受けられるのではないか、それから地域に行きますので、多世代の交流、あるいは世代を超えた地域の人々との交流の機会がある、それから多種目、多志向、それからスポーツ、文化の多様な経験と担い手の育成だということ、それから学校における人間関係と地域における人間関係、並びに地域としての誇りというんですか、もう一つは、居場所、サードプレイスというところも想定していると、こういう新しい価値や方向性みたいなことを、今回、全体としては共有したいなと思っています。

前回、これは比較対象の例として持ち出すことが適切かどうかちょっと怪しいんですが、東京都のフレーズを見ますと、働き方改革とか、そういうどちらかというと、今までのものではうまくいかないんだ的なちょっと負のメッセージが非常に強く出されているんですけども、それですと人はなかなか動いていかない、動機づけられていかないだろうということを感じております。できれば、区民の皆様、それから区内に御勤務されている先生方、あるいは職員の皆さん、それから地域の皆さん、クラブの皆さんも含めてですけども、前向きにこの制度を捉えて、そして共通で認識をしていくためには、いかにそういう価値というんですか、いいメッセージをどれだけ出せるかということも非常に重要ななと思っています。もちろん様々な過程の中で、現実的なあつれきだったり、あるいは調整ということも必要にはなってきますけれども、まずはみんなが1つ夢を見られるということを考えていかなければいけないということから、このような大体6つぐらいの価値はあるのではないかというふうにまとめさせていただいております。

そして、それを踏まえたところで、世田谷区だからこそ、やはり大規模自治体での多様な資源、それから生徒に選ぶ機会が今以上にあるのではないか。もちろんこれまでもありましたけれども、それ以上に確保できるのではないか。そして専門的な知識、技能を有している一貫した継続的な指導体制、そして、同じことになりますけれども、世代間の交流、多世代、それからあとはこの言葉が本当にいいか分からないんですけども、ローカルプライド、簡単に言うと、世田谷区民としてのプライド、あるいは特定の地域を代表する誇りみたいなものを皆さんで共有できたらなと思っています。それを踏まえた上でキャッチフレーズを幾つか選びたいなと思っていたんですけども、私のほうでちゃんと選び切れていないというところがございます、皆さんと一緒にここら辺がいいんじゃないの、ここは推しだぞじゃないですけども、3つ、4つ出していただければ、それを基に私のほ

うで作文をし、また中間報告のほうに載せたいなと思っておりますので、本日は、私が今お話しさせていただいた、資料1に基づいて御意見をいただきたいということと、できれば、このキャッチフレーズ、これがいいんじゃないかというのを言っていただけると、私も次の仕事がしやすいと思っておりますので、御意見をいただければなと思っておりますが、いかがでしょうか。いきなり皆さんに振っちゃって申し訳ないんですけども、資料を読みながら、ここはちょっとヒットするぞとか、これは駄目なんじゃないぐらいで言っただけでも本当に構わないので、御意見をいただくとありがたいんですが、いかがでしょう。

○委員 やっぱり私たちのこの会議で何を重要視して話し合っている、多分念頭にあるのは、前回か、先ほども委員長がおっしゃったと思うんですけども、働き方改革という視点じゃなくて、やっぱり生徒が喜ぶというか、生徒のためになるということが多分皆さんの頭にあることだと思うんですよね。そうすると、生徒や保護者の視点からと書いてあるこの2つ目にある、括弧をしちゃってあるので、私は括弧がないほうがいいかなと思ったんですけども、この「(生徒の)可能性を広げる」という言葉が1つあってほしいなというふうには私は思いました。

あわせて、やっぱり学校と、今度、組織自体の視点からというところになるんですけども、今、学校の部活動があって、これから地域移行していくことを検討しているんですけども、多分全ての部活動を地域に出すということは、恐らく無理じゃないのかなというところもやっぱり私は思っていて、やっぱり学校でやったほうがいいよというのもあるでしょうし、これは地域でできますよね、地域のほうがやりやすいよねというのもあると思うので、学校と地域という言葉も併せて入っていると、すごくいいのかなと思いました。

以上です。

○委員長 委員、貴重な意見をありがとうございました。今、2つの「生徒の可能性を広げる地域クラブ活動」、それから「学校と地域で生徒をともに育てる」といったところの御指摘かなと思っておりました。

ほかはいかがでしょう。

○副委員長 よろしくお願いたします。確認かたがたになるんですけども、この資料1の3ページ目の末尾のところに、「上記の点を踏まえて、本部会では、キャッチフレーズを「 」「 」「 」の〇つと定めることとする」、幾つになるかはこれから議論ですけれど

も、書いてあります。僕がちょっと確認したいのは、新たな価値の方向性としては6点ぐらいありそうだということがあって、キャッチフレーズは、例えば2つだったら、この2つでこの6個を、3・3でも、1・5でもいいんですけども、入れるようにするべきなのか、あるいはそのあたりの確認がまだ僕の中では不十分だなと思っていて、例えば資料1の一番最後のページには、第1のキャッチフレーズ(例)、案として「つながる新たな仲間の輪、広がるスポーツと文化の世界」というのがあって、例えばこれを全体のキャッチフレーズとして、基本理念として定めてしまって、これを具現化するためには、具体例として6個あるので、それぞれについて短いフレーズでぽんぽんぽんと当てていくとか、そんな少し構造化してみるのもいいんじゃないかなと思っているんです。

そうすると、大方向はつながる仲間の輪とスポーツと文化の世界に子どもたちを引き込んでいくんだ、これはもう少し改変が必要かもしれませんが、1つ置いておいて、1から6については、この資料1の1ページ目は、委員長が案を出してくださいましたけれども、これは小グループでブレインストーミングしたときに出された意見なんかも、我々の意見も反映していただきながら、下案をつくっていただいていると思っていますので、そういう意味では、我々が出した意見としてはこういうのがあって、これらが1から6に当てはまるものがあれば当て込んでいって、長過ぎれば短くすればいいしとか、そういう2段階構えぐらいのやり方だと、ちょっとキャッチフレーズを考えやすいかなみたいな気はしているんですけども、そのあたりはいかがでしょうか。

○委員長 副委員長から大項目と小項目というんですか、ある種構造をちょっと分けて、全体としてのばんというところと各論のところと、概論と各論というんですか、そういうふうな2つの構造ではどうでしょうかというところなんですけれども、いかがでしょう。

いいですか。そういう全体としての1個、ワンフレーズは大項目で、そういう意味では、一番上になるんですか、「つながる新たな仲間の輪、広がるスポーツと文化の世界」で、そこから下に幾つか、あるいは「可能性を広げる地域クラブ活動」でもいいですけども、大きなところをつくって、あとは6項目に対応するもの、あるいは1つで2つをカバーする場合がありますけれども、全体が6つぐらいをカバーできるような小項目をつくる、そういうつくり方でよろしいですか。

○委員 委員長、ありがとうございます。私も委員長がおっしゃっているように、大きなキャッチフレーズと、この6つが今方向性として出てきているんですけども、考え方として、この資料を読みますと、方向性が6つ見えてきて、それを反映したといえますか、

この6つの方向性が含まれるようなキャッチフレーズをつくる。いわゆる6つの方向性が出てきたので、それを踏まえて、キャッチフレーズを練り上げるという考え方なのか、それともある程度私たちが共通に持っているような価値観というものをまず言葉にして、それを実現するにはこの6つの方向性が必要だね。先にキャッチフレーズを持ってきて、この6つを下にくっつけていくのか、その辺がとても重要なのかなと。

後者のような形でいいますと、先ほど副委員長がおっしゃったように、「つながる新たな仲間の輪、広がるスポーツと文化の世界」、これを私たちは目指すんだ、その世界を目指すために6つの方向性というのがあるんだよ、こういうような形にすると、キャッチフレーズというのは、個別具体化というよりも、ある程度広いような捉え方ができる。そうすると、1つのキャッチフレーズ、理念というものを置くことができるんじゃないかなと思うんですけども、どういうふうに考えていくのか、構造をどうしていくのか、この6つとキャッチフレーズの関係性をどう捉えていくのかというところは少し考えたほうがいいかなというところでございます。

○委員長 委員からは、6つのものが最終的に集約して1個になるのか、1個何かあったら、それを説明するのに6つがあるのか、大と小を行ったり来たりというところかなというふうに解釈をしておりますが、私は両方かななんて思ってちょっと聞いていたところもありまして、どちらかという頭でっかちになってもしょうがないですし、皆さんの意見を集約したものがそうですというふうにも説明したいですので、今、委員が言った前者、後者というところは両方かなというふうに聞いておりました。

進め方なんですけれども、大項目、小項目みたいな構造でやらせていただいて、ここは絶対入れたほうがいいよみたいなのを言っていただければ、次にもう1回、次の会議のところで再提案というふうにさせていただいて、今、大項目のところでいえば、「つながる新たな仲間の輪、広がるスポーツと文化の世界」みたいなのか、あるいは「(生徒の)可能性を広げる地域クラブ活動」でいくか、どっちで行こうかなというところなんですけれども、ちょっとこっちで決めさせてもらっていいですか。そうしたら、次回、もう1回先生方、あるいは委員の皆さん方から御意見をまたいただいて、個別でもいただいてもいいですし、今、この段階で御意見をいただいたところで、最後、提案という形を私のほうでしたいと思っておりますので、いかがでしょう。皆さんのほうからもう少し意見をいただけるとありがたいんですけども。

○委員 よろしくお願ひします。これまでの学校部活動のメリット、デメリットがあった

かと思えます。大きな学校だと、たくさんの部活動があってそれぞれのよさがある。だけれども、大きいからいろんな課題もあって、小規模は今度選べない、少なくてなかなか選べないというデメリットがあるけれども、1つのところに集中できるというよさも、いろいろあったんですけども、今度、地域移行することによって、やはり私の中でのイメージとしては、多様な志向、世田谷区の多様な資源を生かして、選ぶのが広がって、その広がった先でいろんな方の考えとか、能力とか、いろんなものに触れて、自分を伸ばしていくというのがまず1つなのかなと私の中では考えました。もちろんこのキャッチフレーズ、たくさんある中で、どれもいいなと思えますし、それから新たな価値ということで考えると、もちろんこうなんですけれども、私の中でまずはというところで考えたのはそのところです。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。多様な志向、それから多様な資源というところが1つ大きなポイントかなというふうに関今、お伺いいたしました。ほかはいかがでしょうか。

では、また何かございましたら、後で最後のところでもう1回聞き直しますので、御意見をいただいたところで、次回、私のほうで、本日の意見を踏まえてまた再提案させていただければと思っております。ちょっと頭の中で少しずつ整理することができつつありますので、ありがとうございます。

では、一旦この次第の3番、それから資料1のところは引き取らせていただいて、次の提案と行きたいと思えます。ありがとうございます。

では、続きまして、次第の4のほうに行きたいと思えます。中間まとめでございませ。部活動地域移行に係る検討委員会の報告書についてでございませ。

まず、事務局のほうから願ひませ。よろしく願ひませ。

○事務局 ありがとうございます。中間まとめについて、まず初めにおわびです。前回、メールでお送りするので、御意見をいただきたいということをお願いをしておりました。ちょっと部内等の調整で大分お時間をいただくことになってしまひませ、昨日ぎりぎりにメールで送らせていただいて、今日お出ししている形になっております。ですので、今日御意見をいただくだけではなくて、この後、次回までの間にメールでも御意見をいただければと思えます。簡単に内容について御説明をいたひませ。

まず、これは中間まとめの素案という形になっておりますので、構成等を含めてこれによいかといったところをまずは御覧いただければと思えます。

1枚めくっていただきまして、目次というのがございます。5つの章立てになっておりまして、ちょっと字が消えてしまっていて、第4章というのが抜けてしまっているのです、ここで第4章と書いてあるところが第5章でございます。5つの章立てで、まず現状と、それから第2章では検討委員会を立ち上げていますというような内容で、移行の検討ということです。第3章につきましては、課題と検討ということで、トライアル事業等についてもここで書かせていただいています。それから課題ということで、それから第4章のほうでは地域クラブ活動への、今御議論いただいたキャッチフレーズとその趣旨ということで、第5章のほうが今後の話——ごめんなさい。この目次、最後に直したものとちょっと違うものがついています。後で正しいものをお送りいたしますけれども、順番については、本文のほうで御覧いただければと思います。

本文のほうを軽く御説明いたします。まず、4ページでございますが、第1章で現状です。この辺はこの検討委員会でもお出ししている資料などをベースにまとめたものです。

6ページですけれども、第2章ということで、検討委員会を立ち上げて、こんな検討をしています。

それから、めくっていただいて、8ページのところですが、検討部会で中高、大学生の御意見をいただいたことなどを書かせていただいて、詳しいところは資料という形で後ろのほうに、今日、これにはつけておりませんが、記載をしていくような形を考えております。内容については、昨年度の検討会でお出しした内容でございます。

9ページですけれども、第3章で、ここで課題と検討ということで捉える事業の御説明を出させていただきます。

11ページですが、課題について、この検討委員会で議論したようなところを加えまして、こういう課題がありますということで記載をしております。

13ページの頭のところで、表題は12ページの一番最後になっていますけれども、今後の検討ということでお出ししております、ここが違っているから数字が違ってしまっているんですね。ごめんなさい。第4章で4-1、それから13ページが4-2という形で、15ページが4-4となりまして、4章立てという形になっております。内容としては、トライアル事業の、今日は別資料で出させていただいている1回目のアンケートというのをここで、別添資料でお出しすることと、ちょっと中間報告をまとめるタイミングで、もしかしたら、2回目のアンケートも間に合うかどうかという形になるかと思えます。

最後に、先ほど議論した、14ページです。キャッチフレーズについて書かせていただい



て、まとめの言葉は今、まだ、そこまできちんと書いてありませんけれども、まとめの言葉があつてというような形で、あとちょっと量が多くなりますけれども、資料編が別にくという形で、とりあえず今、仮の形ですけれども、まとめさせていただいております。

番号に不備があつて大変申し訳ございません。後で正しくなったものをお送りさせていただきます。

御説明は以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。それでは、この資料2につきまして御質問、御意見をいただきたいと思いますが、幾つかあるかなと思つてはいるんですが、1つは章立て、あるいは構成がどうなっているのかというところと、それからその内容の各項目の内容が過不足ないかどうかという視点、それから最後、私もちょっと聞きたい、この報告書がどこまで、いつというところの広がりみたいのところと、タイムスケジュールをちょっと確認したかったところなんですけれども、まず章立て、ここら辺は不足しているんじゃないか、いやここはもう少し足したほうがいいんじゃないかみたいなのがありますか。いかがでしょうか。

○副委員長 私、1点検討をお願いしたいと思うんですが、重要な点は網羅していただいていると思うんですけれども、9ページの第3章、3-1、地域移行検討のためのトライアル事業の実施、これと11ページの3-2、部活動地域移行の課題ですけれども、これは反対にしてもいいのかなという気がいたしました。要は、課題があつて、解決するためのトライアルをしました。方向性についてはまた検討しますの流れのほうが通りはいいかなと思つたので、御検討いただければと思います。

以上です。

○委員長 貴重な意見をありがとうございました。では、そこをもう一度検討いただければと思つています。

そのほか、まず構成、流れも含めて、全体としての報告書のまず全体の構造はいかがでしょう。

○委員 7ページでしょうか。トライアル事業の前で、要は今回の視点みたいなものを結構この場で議論してきたかというものがあつて、それが今日冒頭お話があつた6つの視点みたいな形でまとめていただいているので、検討状況プラス、その辺をきちんと書いていただいた上で、流れ的に、例えば14ページのキャッチフレーズがその辺につながっていくような、そういう流れがあつてもいいのかなとは思つました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。そういう意味では、6つの価値みたいなところの内容がもう少し前面に早い段階で出られないかという委員の御意見かと思いますが、それでよろしいですかね。

○委員 まとめていただきまして大変ありがとうございます。もちろん中間まとめということですので、最終的な報告書がこの後、肉づけをされてできると思うんですけども、本検討委員会の特色としましては、中学生とか高校生とディスカッションをしたですとか、我々もグループワークをして、キャッチフレーズの基となるようないろんなアイデアを出した、この辺のプロセスについては、世田谷区の検討委員会のオリジナルの部分になるかと思いますが、そういったところの説明があると、こういうプロセスを経て、しっかり意見を聞いて、考えてつくっているんだということが分かるのかなと思いますので、その辺の肉づけを御検討いただけると大変うれしく思います。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。これはどうしましょう。今の意見は「はじめに」のところで入れますか、あるいはどこかプロセスのところ、委員会のほうで事務局、何か付け加えられますか。

○事務局 私の意見としては、「はじめに」のほうにお書きいただくのも、全体を読む前に、そこでお示しできるのも分かりやすいかなとは思いますが。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。基本的には当事者の意見を聞くという姿勢がここの検討委員会の非常に重要なところでしたし、できる限り委員の皆様の御意見をいかに反映するかというところで、グループディスカッションを入れたというところをちょっと「はじめに」のところで、これは私が何ページを書けばいいのかがよく分からないんですが、入りたいと思います。頑張ります。

○事務局 多分グループディスカッションのことについては、「はじめに」のほうにもお書きいただいた上で、ちょっとこの表の中に1行だけは触れるようにいたします。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 先ほど生徒の意見のことにつきまして、8ページのところの2-1-2、検討部会の実施のところ、丸々生徒の意見を聞きましたということになっていて、細かいものについては資料を参照してくださいというつくりになっちゃっているんですね。なので、

このところをもうちょっと工夫して、検討部会の実施のところ、先ほどの最初にいただいた6つの視点の話ですとか、グループワークしましたみたいなのも入れながら、生徒の意見についても1項目立てて、生徒の意見を聞きましたという項目にしてこの説明を加えるような形も考えながらいきたいかなと思っております。

○委員長 ありがとうございます。新しい項目を立てるということで。

では、構成のみならず、今度は各論のところ、各章の内容に関わって、もう少しここは足してほしい、あるいは修正してほしいという具体的な中身に関わりまして御要望はございますでしょうか。委員の皆さん、いかがでしょう。御自身の今立場から、あるいは御勤務先の視点から考えていただいて、ここはちょっと入れてほしいとかはないでしょうか。あるいは立場からでもいいです。

では、また何かございましたら、後でお伺いしたいと思いますが、ちょっと確認をしたのは、この中間まとめがいつまでに出されるのかというタイムスケジュールと、それからこのまとめがどこに広がって流布されていくのか、例えばネット上で公開されていくのか、マスコミにも配られるのかとか、そこら辺はいかがでしょうか。

○事務局 まとめるタイミングにつきましては、これは目的は来年度にこの事業検討を、検討も続けるんですけれども、事業も展開していく中で、当然事業としての予算も取らなくてはならないということで、そういったタイミングに合わせて一旦中間まとめという形で出すことを考えております。今、予定としては、7月中とっておりますが、7月から8月のタイミングで確定をして、庁内で決定した後は、ホームページ等に掲載をして、公開していくという形になります。決定した後ですけれども、区議会のほうに御報告をするという形で、区議会の資料としても公表されますので、伝わっていく形になります。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。7月から8月で確定と、その後、ホームページ、それから議会というところでございますが、内容に関わりましても、含めて、それを踏まえたときに、ここまではどうでしょうかという、あくまで中間まとめでございますので、全体の最終まとめではございませんが。

○委員 ちょっと補足、9月の議会、9月頭になるのかな、上旬にあるんですけれども、そのところには中間まとめですということで報告したいというのが一応中間まとめのお尻かなと思っております。なので、その前に庁内の説明が必要ですよということ。

あともう1点、これは中間まとめで終わりじゃなくて、結果として3月にいわゆる今回

の検討委員会の最終まとめというのが出ることになりますので、何でもかんでも中間まとめに入れる必要はなくて、ある程度のところは今回のところに入れて、また引き続き議論ということになるのかなと思っておるところでございます。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。ちょっと委員会のほうでどういう議論になったのか分からないんですけども、ここまでの章立てのところはかなり情報を絞ったんですか。ここはちょっと入れるのをやめようとか、そういうのがあったのでしょうか。ちょっとそこら辺の経緯を少し教えていただくとありがたいんですが。

○事務局 案としてつくっている中では、ここまでのプロセスですとか、いろいろと資料としてお出しして、共有している部分についても、大分掲載をしたものも一旦はつくっております。それで、議事録などで皆さんの御意見などを参考にしてまとめたものを少しづつ絞っていったという形で、先ほどの生徒の意見、中高、大学生の意見も当初入れてあって、これは資料に盛っていかうかという行ったり来たりという構成になっております。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 7ページの先ほどの第1回から第6回の検討委員会の流れがあると思うのですが、これも、これと第3章の3-1と3-2のつくりが逆かなというふうに思っています。突然トライアルが3章の最初に来ています。実際には第5回でいろいろ課題について話して、その後、トライアルになりましたが、こちらの第3章は逆になっているので、流れ通りにしたほうが分かりやすいのではないかなということと、あわせて、目次を見ると、同じくまた4.2「地域移行にあたっての課題」という項目立てがありますが、この課題が多分同じことになるのか、何か違う課題なのか、これはミスプリントだったらミスプリントでいいのですが。

○事務局 これは「地域クラブ活動への移行に係る」と書いてあるのと「4.2」と書いてあるのが誤記入でございます。ですので、そこは2行分にバツをつけていただいて、その後ろの第4章というところが、4.1から4の番号になってきまして、本文と対比しております。申し訳ありません。

○委員 一番最初に5章立てというお話で……。

○事務局 ですので、私がこれを読みながら話してしまったので、4章立てが正しいです。第3章の次の2行については削除いただいて、その後が第4章が正しくて、4.1、4.

2、4. 3、4. 4という形になっております。申し訳ございません。大変失礼いたしました。

○委員 それなら理解しましたが、課題とトライアルが逆のほうがいいのか。

○事務局 はい。

○委員 以上です。

○委員長 委員、貴重な御意見ありがとうございます。

○委員 中間まとめということなので、要はこの中間まとめで何を出したいのかというのは、正直お話を聞いていて分からなくて、多分最終的なまとめに向けて骨格、ここまでお話しして、先ほどのキャッチフレーズじゃないですけども、骨格みたいなものは出てきたので、多分そこをまず出していくような形で中間まとめだと思うので、その辺が例えば4. 3の移行に係るキャッチフレーズとその趣旨でまとめようとしているのか、ちょっとその辺、はっきりさせたほうがいいのかと思っています。多分、今後、この検討委員会でそれに基づいて肉づけじゃないですが、じゃ、こういった課題があるから、具体的にどうしていきましょうとかって、そういう流れになっていくのかなと思っています。

○事務局 どうもありがとうございます。さっき委員長のほうからも御質問があった、つくったときにどういう経過でしたかというようなお話とちょっとつながってきますが、当初、課題があって、課題の解決策についても皆さんにたくさんの御議論をいただいているので、そのの部分まで入れたものを1回つくってみています。それで、それをちょっとシンプルな形に変えたものを今お出ししております。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。全体としてもう1回ちょっと章立ての確認をしていただいて、再度、どこの情報を出すか全体として、アピールと言ったら失礼ですけども、まとめとしての私たちのやってきたことが反映しやすいのかというところをもう1回御検討いただければなと思っています。ただ、時間的には7月中にある程度もう固めてと考えると、あと数週間、8月、9月というところで急がなければいけないというところですので、できる範囲のところ収めていただくということかなと思っています。

そのほかいかがでしょう。今のところ、意見は逆に出していただいたほうが、後でまとめやすいかなと思っていますが、いかがでしょう。

副委員長、何かありますか。

○副委員長 大丈夫です。

○委員長 大丈夫ですね。ありがとうございます。

では、またこれはどうしますか。次回再提案、あるいはもうこれはある程度意見を言って、つくってしまって、文書だけで書面でやりますか、どういうふうにしますか。

○事務局 まず、今いただいた順番を変えるですとか、ちょっと私どもの不備も含めて、変えられるところについてはまず変えさせていただいて、それについてはまずはメールで送らせていただきます。今日いただけなかった部分も含めて、御意見はメールでもお送りいただいて、次回の開催日の調整も多少関係してまいりますけれども、次回までの間にある程度まとめたものを何度かメールで送らせてはいただくという形を取りたいかなと思います。ですので、できればその御意見をメールでお寄せいただくということをまずお願いしたいと思います。

○委員長 分かりました。では、この件につきましてはよろしいでしょうか。

事務局、よろしいですか。補足、ほかに意見をもっと欲しいとかってありますか。次のところへ行っちゃっていいですか。

○事務局 1個だけよろしいでしょうか。委員から今御意見があった、ちょっと方向性が分かりにくいんじゃないかという御意見については、ちょっと経過も御説明しましたけれども、その辺でさらに何かちょっとアドバイスをいただけるようでしたら、お願いできればと思います。

○委員 役所的な話になったら申し訳ない。先ほど、この中間まとめを出す目的の一つとして、要は来年度の予算要求の話とかというお話があったかと思います。この時期に、骨格と言いましたけれども、もうちょっと具体的な記述、この間の検討委員会の議論を踏まえて、冒頭お話があった6つの視点で、こういうので行きますみたいなものは、書いていったほうがいいのかなど思っていて、検討、検討、検討で、どういう方向に進むというのが見えなくなるので、そういうところが必要かなと感じました。

○事務局 ありがとうございます。

○副委員長 さっきないと言っていてすみません。今、委員からのお話がありましたので、僕もちょっと関係するかと思うんですが、例えば8ページの2-1-2の検討部会の実施のところ、そういう方向性とか、話し合ったことが出るとして、9ページから11ページの、これでいうと3-1と3-2、さっき委員が御指摘いただいた入れ替えたほうがいいのかというところがあって、例えば課題を3-1として出しておいて、この課題で出されていることのどれがトライアルの事業に反映されているのかというあたりを、簡

条書きでもいいので、例えば世田谷区スポーツ振興財団によるトライアル事業、i)顧問に代わり外部指導員がというところは、課題の(1)の何番目と対応していますよとか、そうすると、課題解決に向けて動き出しているんだなというのは、私なんかだと、分かりよくなるかなという感じはしております。全部が全部オーバーオールしているわけではないので、今回はこれについてやってみて、保護者さんと先生方と子どもさんにはこんなふうに聞いたということ、ただ、アンケートで取っていない項目もきっと対応関係で出てくるので、それを入れるべきかどうかはちょっと御判断かと思います。ハラスメント云々とかも、気にしているけれども、アンケートは聞いていないと、だとすると、これはどうなっているんだという話になったりするので、それを入れて、今回の検証はここまでしたという形にするのか、検証した分だけ対応関係を見せるのかというのは、またちょっと相談かもしれません。

それから、14ページの5-3の地域移行に係るキャッチフレーズとその趣旨については、これは委員長の担当分なので、あまり越権するつもりはないんですけども、こうこうこういう基本理念、全体を統括するような、包摂するようなワードがあって、その具体策として6つの視点があってという形で、これから僕らは進んでいくんだというのが明示されると、より今後に向けては方向性が示されるんだらうなと思って聞いておりました。

最後の今後の継続的な検討のところでは、これは暫定的に2段落入れていただいていますけれども、我々は生徒ファーストで行くだというこの前に出てきたような議論の中で僕らが使ってきた言葉を入れていただいたりすると、ぶれずにやっているんだなということの発信にはなるのかなということで、すみません、早口で3点ほど言わせていただきました。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。今、様々な意見が出ましたので、それを踏まえて、もう一度再提案していただくというので、そのほかの点はよろしいでしょうか。

○委員 副委員長と同じなのですが、トライアル事業の検証はこれから多分やるのだと思うんですけども、これが1つの柱になって、そこから何が見えて、何をこれからやらなきゃいけないから、財政的にはこういう項目立てが必要だし、予算措置が必要だみたいな、そういうストーリーが出てくる。だから、世田谷区の中学校部活動の今後の構成について書かれていかないと、ストーリーがつかないの、それが1つ。

それ以外に、先ほど副委員長がおっしゃっていたような、今回のトライアルで網羅でき

ていないようなところについても、幾つか書き出して、それについて今後、トライアルを新たにやるとか、継続してやっていくような、そういうストーリーがいいのかなとちょっと思いました。

以上です。

○委員長 委員、ありがとうございました。

ほかにありますか。

では、多くの意見が出ましたので、それを踏まえて再度、再構成していただいて、御提案をいただく。あわせまして、委員の皆様方のところにメール等が行きますので、御意見を逆にいただければというところ、そこはキャッチボールをしながら一緒につくればなというところがございます。

では、こちらの次第の4につきましては一旦終了させていただいて、次に行きたいと思っております。

では、次第の5、トライアル事業のアンケート結果のところでございます。資料3につきまして、事務局からまた御説明をいただければと思っております。

○事務局 では、資料3を御説明させていただきます。

トライアル事業を始めまして、1回目のアンケートを取りましたので、その結果の御報告です。質問については、せんだって、皆さんからいろいろ御意見をいただいたものを反映した形で行っております。

1ページをめくっていただいて、調査概要ですが、前回も御説明をしておりますので、御覧いただければと思いますが、期間については6月の半ばから後半にかけて取らせていただいております。生徒が持っているタブレットを使って回答をいただいているような形を取っております。さらにめくっていただいて4ページからさらっとだけ御説明をいたします。

まず、4ページからが生徒対象のアンケートです。まず初めに、学年を聞いております。

次、5ページですけれども、質問2としまして、トライアル事業をやっていることを知っていますかということで、これは御説明はしているはずなので、少し聞き方が悪かったり、多少誤解があるかと思いますが、知っているという回答が一番多くなっております。

質問3、6ページですが、トライアル事業の部活動に満足していますかということで、上から4つというか、3つというか、部活について聞いていますが、満足している、どちらかといえば満足しているを足した数として、体力向上部が60.5%、ソフトテニス部が



55%、陸上競技部が64.8%、陸上競技部の船橋希望中が64.4%という形になっております。

次の7ページですが、この質問について、7ページ、8ページでそれぞれの理由を記載していただいています。

次のページです。9ページです。トライアル事業でより満足のいく指導が受けられていますか、これもしっかりと受けられている、受けられているを足しますと、それぞれ85%を超えるパーセンテージになっていて、一番高いのがソフトテニス部が2つ足すと95%となっています。

10ページですが、質問7です。指導者が活動日によって替わる場合についてどう思いますかということで、一応問題ないとあまり問題ないを足すと高い数値が出ておまして、体力向上部についてはこの2つを足すと97.3%です。陸上競技部については、砧中と船橋希望中で少し結果が変わってしまして、これは御指導が船橋希望中の顧問の先生が中心になってやっというところ、すごい優秀な先生なので、船橋希望中の方にとっては、いつもの先生が優秀だからというところ、こういう結果が少し出てきているのかなとは思っています。逆に砧中の生徒さんにとっては、合同でやっていることがとても好評でという形になっているかなと思います。

次の11ページが自由記述になっています。

12ページですけれども、学校の先生以外の外部の指導者とコミュニケーションが取れていますかという質問です。体力向上部とソフトテニス部は取れている、どちらかといえば取れているというところで比較的高い数値が出ています。特にソフトテニス部は足すと90%という形です。陸上競技部については、比較的取れていないほうの数値が高くなっていて、かなり人数が多いということもあるのかなというふうに分析しております。

次のページ、13ページが自由記述です。

14ページですが、質問の12です。これは外部のいろいろな機関に部活動指導をお願いしていますということで、そのことについていろいろ聞きますという質問ですが、体力向上部についてはといたしますか、まず4つ共通して、けがや指導者とのトラブルがあったときのために先生にいてほしいという回答は、この14ページと15ページの4つの部活動全部、かなり高い数値でいてほしいというふうに、そう思うというふうに答えています。体力向上部ですが、部活動は学校の先生が顧問として指導したほうが良いというところが71.1%という数字、ただ、反面、学校の活動として行われるのであれば、指導者は外部の人でもよいという質問に対しては、76.3%の人がそう思うと答えていて、これは比較的相反する

質問なんですけれども、どれも割と両方とも高い数値が出ている、ほかの部活動もそういう形にはなっています。ちょっと高めのところで行くと、体力向上部については、今までと同じ場所で活動できるのであれば、部活動が学校外の活動となってもよいという質問で、そうしてもよいが71.1%と比較的高い数値が出ています。ソフトテニス部で見ますと、2番目の学校の活動として行われるのであれば、指導者は外部の人でもよいが90%ということで、今回、比較的このトライアルが好意的に受け止められているのかなという数字が出ております。

次ですが、15ページに行きまして、陸上競技部の砧中についてですが、まず、部活動は学校の先生が顧問として指導したほうがよいが81.1%、2番目がその反面の質問ですが、学校の活動として行われるのであれば、指導者は外部の人でもよいも73%という数字になっております。陸上競技部の船橋希望中ですが、やはりこの2つの質問が両方とも高数値なんですけれども、先ほどの御説明と一緒にありますが、部活動は学校の先生が顧問として指導したほうがよいというのが88.9%、これはやはり優秀な顧問の先生が指導されているからかなと思っています。

下から2番目です。専門的な技術の指導を受けられるのであれば、部活動が学校外の活動となってもよいが73.3%、これは陸上部のトライアルが総合運動場を使っていて、とても環境がよいというところと少しつながっている回答かなと思います。

16ページが自由記述、17ページが施設について聞いております。学校外のグラウンドや施設まで移動することについてということで、陸上競技部に聞いておりますが、これはどちらか設備が充実した施設で活動できるなら移動してもよいという回答が5割を超えております。

18ページですが、移動について聞いています。これは陸上競技部だけが移動しているんですけれども、砧中については、徒歩圏内がよいが55.2%、船橋希望中は今、ちょっと遠いところまで移動されていて、やっぱりそこは大変みたいです。移動するなら自転車を利用したいが71%ということで、自転車の移動についてもトライアルの中に含めていきたいかなと、今、所管課では思っております。

19ページ、どちらかといえば移動したくない、または移動したくないの回答理由が書かれています。

次、質問17ですが、他生徒と部活動を行うことについてどう思いますかと、楽しいという回答が5割を超えております。

20ページですけれども、自由記述がある後で——ここは資料となっていますけれども、質問ですね。質問18、質問19、質問20です。誤植です。申し訳ございません。御説明は質問20ですが、他校の先生から部活動の指導を受けることについてどう思いますかという質問で、これも陸上競技部なので、砧中については、よいと思う、どちらかといえばよいと思うが89.2%、船橋希望中については、合わせて73.4%となっております。

22ページからが顧問教員の御質問で、27ページからが指導者の質問になっています。顧問の先生なんですけど、人数が少ないので、どなたがどういう回答をしたかが分かってしまう結果となっています。ですので、今回、質問の内容も御検討いただいたことから、今日資料としてお出ししておりますけれども、この項目については、ちょっと公表は控えたほうがいいのかとも思っております。

27ページからの指導者からの質問についても、あまり多くの方ではないんですけれども、御回答いただいております。ちょっと数字については御覧いただければと思うんですけれども、30ページのところで、外部指導者の視点から見ての御意見というのを自由記載いただいております。ちょっと御紹介すると、体力向上部については、まず、1つ目のポチですけれども、外部指導者として部員に関わっただけだけれども、学校外で体力向上部の部員に会うと挨拶をしてくれる子どもが出てきたと。地域での防犯や子どもたちの成長に意義のあることではないかと思うという御意見がちょっと目を引きました。

それから、4つ目のポチで、子どもの部活動の時間に対応できる人材を確保するのはかなり難しいのではないかということで、体力向上部は朝早い時間帯なので、比較的そこは苦勞を今されていなくて、多分これからのことをいろいろ検討いただいている中での御意見かなと思います。ソフトテニス部のほうもやはり平日に教える人材を確保するのが難しいという問題がありますという御意見があって、ここについては、ソフトテニス連盟、世田谷区の中の連盟で出していただいておりますが、やっぱり難しいのかなというところがございます。

ちょっと駆け足ですが、御説明については以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。生徒、それから顧問、教員、そして指導者という3つのアンケート項目でございましたが、全般に関わりまして、御感想でも構わないですし、質問でもいいですし、御意見、御質問がありましたら、いただければと思っております。いかがでしょうか。

○委員 慣れない環境、それから状況の中でのことですので、このような数字が出てくる

場合もありますし、それから、慣れていけば、もしそのときにこのようなアンケートを取ったときに、また違う結果が出てくるのかなと思います。ただ、14ページ、15ページの真ん中辺りのけや指導者とのトラブルがあったときのために先生にいてほしいという数値が、いずれの部も80%近く、あるいは超えていると、このところがちょっと気になりました。今後、地域に移行して、あるいは地域連携という形でとやっていったときにも、日頃、学校で授業で教わっている先生方がやはり身近にいる存在ですので、この辺のところがちょっと気になる数字でした。

以上です。感想です。

○委員長 ありがとうございます。これは、結果として、なかなか先生方がやっぱりついていくということを子どもたちが望むということですかね。

○事務局 多分ですが、まだ今、学校の管理下という形でまずトライアルをやっているのので、やっぱり先生が教えなくても割と同じ空間の中にお1人ぐらいはいらしたり、つなぎ役として顧問の先生がつかれていたりするところがまずはあるので、その上でもこういう回答は出てきているのかなといえますか、顧問がいない環境があまり想像できない状況かなとは思いますが、ただ、いない状況ができたときにも、もしかしたら、こういう気持ちは子どもさんたちにはあるのかもしれないですし、ちょっとそこはまだ分からないかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 このところは、学校の先生と最初に打合せをしまして、保護者への連絡はどうしますかと我々が言ったんですね。現状は顧問がいますと、いないときも職員室にいますので、職員室に連絡してくださいと、生徒、保護者に対しては、個人情報があるので、現状は教えないようにしていきましょうかと、その後、トライアルしてどうするかはまだ決めていません。

○委員長 ありがとうございます。個人情報の取扱いというところが非常に重要な観点が出てきたかなと思っておりますが、ほかはいかがでしょう。

○委員 1つは、競技の特性で少しデータが動いているのかなということですね。例えばソフトテニス、恐らくコーチの関わり方として、やっぱり選手の判断というのが実際には優先して、コーチはどっちかというところ、戦略とか、そういったことを指導する。だから、あまりその場にコーチがいなくても、依存度が少し低いのではないかなという気がします。特に陸上は、F中の先生は専門的な指導のできる方で、K中は熱心なのだけれども、そこ

まで専門的ではないですね。そうすると、やっぱり陸上競技部だけを見れば、F中のほうが先生の依存度が高い気がするんです。K中は専門的にもっと教えてほしいという子が、外部のコーチでも自分にとってはとてもいいなと思っている子が多いのかなとは思いますが、それから、メニューが違うから嫌だみたいな意見があるのですけども、ここからやっぱり顧問同士とか、外部の方が入ってくる時に、そのすり合わせを、ふだんどういう練習をしているのかとか、どういうグループの子にはいつも何を重点にして指導してきたのかみたいなことの情報交換を最低限したほうがいいのかないかなということがここから分かるかなと思いました。

それから、交通機関については、K中が交通の便が非常にいいので、F中はあまりよくないのですよね。そういうところで、電車、バスの移動でも構わないなんていうのは、明らかにもう全然差が出ていて、学校の立地で駅に近いかどうかみたいなこと、交通機関が便利かどうかということと、練習会場までの距離みたいなことも本当に影響が出てくるかなと思いました。そういう意味では、K中とF中のこの比較はいろんなことが見えてくるかなという気がしました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。競技、あるいは種目の特性、それから指導者間の情報共有、そして交通のアクセスも含めて、その会場や練習会場まで行くまでのアクセスのところはかなりここから見えてくるという御意見だったかと思います。

○委員 ありがとうございます。このアンケートの結果を見ての率直な感想と、1点質問がございます。

4月、5月から始まったトライアルですので、それを受けての結果なのかなという感想もあります。やはり生徒からすると、安心感のあるような環境でやりたい、信頼している先生の下でやりたい、不安がかいま見えているかなと思います。また、始まってすぐの段階では、連絡調整業務というようなところが新たな業務として加わってくるので、先生方の御負担なんかも必然的に増えているのかなと思ってみました。これからどういうふうにこの結果が変わってくるのかなというのは大変興味深いところです。

その中で1点なんですけれども、26ページの船橋希望中学校の陸上部の先生のコメントがすごく残りまして、今回のトライアル事業で合同部活動、いわゆる兼職のイメージというような形で進められていると思うんですけれども、ほかの方々にはお手当をお支払いしているかと思うんですけれども、この陸上部の先生に対しては、特に兼職というようなお

手当を出さないで進めているというような感じでしょうか。

○委員 こちらにつきましては、学校の部活動で先生が見ていただくということなので、お手当というのは出さない形でやっています。

○事務局 ちょっと補足します。今回学校の管理下でやるということにまずなっていて、それで、先生、まだ兼職、兼業の手続も決まっていないということで、なので、お支払いしたいところなんです、お支払いができないという体制になっております。

○委員 ありがとうございます。ちょっと気になるコメントだったかなと思いました。

あともう1点、追加で申し訳ないんですけども、生徒のところのアンケートで、事務局のほうからも説明がありましたけれども、項目ごとに整合性が少し取れないような結果がかいま見えるというところの中で、少し私が気になったのが、生徒さん自身が、例えば学校外の活動になった場合というものをどういうふうに認識して答えているんだろうなというのがちょっと不安なところです。学校外の活動になったというと、我々からすると、もう学校とは全く切り離されて、保険の問題とか、いろんな問題というのが学校の先生に相談するというよりは、もうそれ以外のところで処理をするというふうに捉えるかと思うんですけども、アンケートをこれからつくっていく上で、14ページですけども、部活動が学校外の活動となってもよいか否かというのを判断させるときに、学校外の活動というのを彼ら、彼女らはどういうふうにイメージするんだろうなというのがあるので、現職の先生方はどうでしょうか。こういう質問をされると生徒さんはどういうふうに捉えるんだろうなと。

委員、いかがですか。

○委員長 学校外の活動を子どもたちはどのように捉えていたのかということですね。

○委員 個人差も多いと思うので、なかなか明確にはちょっとまだ言えないかなと。トライアルの回数もまだそんなにたっていないので、あと船橋希望中は、先ほども話が出てるように、特に陸上部はまだ自分らの陸上部でやっているだけの感覚で、砧中が参加できない回も何回かあったみたいなので、ちょっとまだ明確には言えないかな。

○委員 ここで結構イエスが多いんですけども、一方で、先生にはいてほしいとか、先生の意見をちゃんと外部の人が聞いてほしい、これもイエスが多いんですよ。このイエスが2つ多いにもかかわらず、学校外の活動になってもいい、これもイエスなので、その辺が生徒のやっぱり理解によっても結果って変わってくるのか、どういうふうに認識するかによって変わってくるのかなともちょっと思いました。

○委員 この質問が同じぐらいの回答というのは、やっぱり生徒もあまりイメージができていないのかなと。

○事務局 そうだと思います。

○委員 また、今後変わってくるかもしれない。

○事務局 多分続けて質問を、ただ並べているので、1個ずつ答えているだけなんだと思うんですね。

○委員 恐らくそうです。だから、真逆のことを言っているかもしれないですね。

○委員 トライアルの課題を出すということでいえば、先ほどの活動時間で、実はK中は部活動は通常6時までなんです。F中は6時半まで、そこでもう30分ずれている。でも、トライアルの日は7時までなので、顧問としては負担感が残る。では、フレックスみたいなふうにして途中で、学校の活動時間を優先して上がることができるのかとか、そういったことも顧問同士でやっぱり調整しないとかなかなかうまくいかないのかなというものが1つです。

それから、もう1つは、K中が2回このトライアルに参加できなかったのは、テスト週間とテストの日なんですよ。これもF中とK中はスケジュールが違うので、どうしても合同部活動だと参加できない日ができてくる、そうすると、単独でやるということになるわけですよ。もちろん陸上部がほかに3校も4校も参加してくればまた話は別なんですけれども、今2校の状態だと、片方は参加できないということが出てくるかなと。ところが、逆の、K中が行けて、F中が行けないときに、専門的な指導者も行かないのかみたいな課題も実は出てくることです。そんなことを思いました。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。非常に重要な2校、あるいは複数校が重なったときに見える学校間の違いみたいなところが出てきたかなと思っていますけれども、ほかはいかがですか。

○委員 ちょっと気になった点だけ。14ページ、15ページの先ほども取り上げられていただけがや指導者とのトラブルがあったときのために先生にいてほしいというところは非常に高いんですけども、もしかして、指導者とトラブルがあることを不安視しているとすると、そこはちょっとどっちなのかなと、分かりにくかった質問かなと思って。

○事務局 言い方が。

○委員 そうですね。やはり生徒さんが指導者ともしかしてトラブルが起きるんじゃない

かということに不安視しているとすれば、そこはちょっと改善しなきゃいけないところなのかなと思いました。

あとこれは私の個人的な感覚かもしれませんが、地域で子どもの部活をやる前に、サッカーとか、野球とか、地域の方に教わっている子どもたちというのは、中学生になったときに、地域の人から教わることに對してのアレルギーは低いのかなと思っているんですね。中学校に入って初めて部活に入って、先生が指導者になった場合に、急に地域の人に教えてもらうということについては、アレルギーが出るんじゃないかなという気がちょっとしました。私自身も子どもの頃、サッカーをやっていたので、地域の方に教わっていたので、逆に先生より地域の方のほうがいいやみたい、先生のほうが下手だみたいなものもあつたりもするものですから、そういうところも内在する子どもの感情としてはあるかもしれないなと思いました。

以上です。

○事務局 ちょっと補足していいですか。これまでの検討会では資料としてはお出ししていないんですけども、実は世田谷区は小学校でもスポーツ教室というのを区が委託してやっております、それは地域の指導者が教えを担っているんですね。今日いらっしゃった委員とかも学校で指導されていますけれども、多分いずれの学校でもそういうことを小学校ではやっていて、なので、今、委員がおっしゃったようなそういう経験値が高い子というのもいるのかなと思います。

○委員 総合型スポーツクラブだといろんなことをやって、地域の方が子どもたちにすごく関わっているんで、そういう子どもたちは全然アレルギーが出ないと思うんですけども、そうじゃない子どもさんは違うのかなという感覚です。

○委員長 ありがとうございます。その子のスポーツ履歴みたいなのが今後、追っていければなというところがございますけれども、どこまでやるかというところでもございます。

さて、これはまた御意見が幾つかあるかと思いますが、次のところがまだございますので、一旦これで次の話題に行ってもよろしいでしょうか。

では、次、次第の6でございます。地域移行のアンケートでございます。全生徒、保護者、教員向けというところがございますけれども、これは資料4につきましてお願いします。

○事務局 では、資料4でございます。これについては、トライアルとは違って、部活動



をやっていない子も含めたアンケートという形で生徒に対するものと、保護者に対するものと、教員の方に対するものという形で今準備を進めています。時間も大分押していますので、中身については細かく御説明をしませんけれども、ちょっと学校の教員の方とかにも少し御覧いただいてまとめているものになっています。ですので、皆さん御覧いただいて、これについてはこの後、メールでの御意見でも構いませんので、また御意見がございましたら、ぜひいただきたいと思っております。

御説明は以上でございます。

○委員長 分かりました。これは皆さんに新しく配られているものですので、じっくり見ていただいて、御意見があればというところかと思えます。

では、その他、何か事務局よりございますでしょうか。

○事務局 事務局から特段口頭でお願いすることはございません。今日は色々議題の中でこの後メールでお送りをしますというものが多かったと思いますけれども、ちょっと御負担をおかけしますけれども、ぜひメールでも御意見をいただければと思います。

1個だけ補足です。すみません、説明を忘れました。トライアルのアンケートについてなんですけれども、演劇部については、まず最初のワークショップがまだ始まったばかりなので、今回取らせていただいております。また少し時間を置いて1回目のアンケートを取る予定でございますので、それだけすみません、ちょっと御説明を忘れましたので、補足いたします。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。

次回の予定なんですけれども、これは調整中と入っているんですけれども、大体いつぐらいを、報告書も含めていろんなところがあるかと思いますが、イメージされていますか。

○事務局 できれば7月中ぐらいをと思ってはいるのですが、皆さん方の御予定を調整しなくてはならない。ちょっと7月、特に大学の先生の皆さんはいろいろと微妙な時期かもしれないですが、そのあたりで調整させていただければとは思っております。

○委員長 分かりました。

では、第6回の会議録のことで皆さん、追加が何かございましたでしょうか。よろしいですか。

そのほか、皆様のほうで共有しておくべきことは何かございますか。

では、なければ、ちょっと5分ほど早くなってしまうて申し訳なかったんですけれども、

それでは、第7回世田谷区立中学校部活動地域移行に係る検討委員会はこれにてお開きとしたいと思います。ありがとうございました。お疲れさまでした。

午後7時57分閉会